

法律科目試験問題（刑事訴訟法） 配点 50 点

〔第1問〕 次の【事例】を読んで、【設問】に答えなさい。（配点 20 点）

【事例】

- 1 警察官 P は、元暴力団員である A が覚醒剤を売りさばいているとの情報を得たので、A の大阪市内の自宅近くに張り込んで A の動向を監視していた。すると、2025 年 1 月 14 日午前 10 時ころ、A 宅に若い女性が入っていった。P はこの女性が覚醒剤を受け取りに来た A の客であるか、覚醒剤取引の共犯者である可能性があると考えた。そこで P は、この女性が A 宅から出てきたら職務質問をしようと待ち構えていた。
- 2 同日午前 10 時 10 分ころ、女性が A 宅から出てきたので、P は A 宅から 50 メートルほど離れた路上で女性に職務質問を開始した。P が「Aさんのところには何の用事で行かれたのですか？」と尋ねると、女性は「そんなことに答える義務はないはずです。」と応じ、P が求めた所持品（菓子袋大の紙製の手提げ袋で、中にポーチのようなものが入っているのが見えた。）の確認にも応じなかった。そこで P が女性の承諾を得ることなく、手提げ袋からポーチを取り出して中身を確認すると、中には 10 個ほどの透明の小袋に小分けされた白色の粉末が入っていた。P が「これは覚醒剤だな、A から受け取ったものに間違いないな。」と聞くと、女性は無言でうなずいた。
- 3 そこで P は、女性に対して「覚醒剤所持の現行犯人として逮捕する。」と告げて女性に手錠をかけ、女性の腕をとって A 方前に戻った。P が女性に「玄関ドアを開けさせてくれ。」と依頼すると、女性は「Bです。忘れ物をしちゃいました。」とインターホンで告げた。すると A が玄関ドアを開けて顔を見せた。P は A を押し退けて女性とともに A 方内に入り、A に対して、「この Bさんを覚醒剤所持で逮捕した。お前も共同所持者として逮捕する。」と告げて、A にも手錠をかけた。
- 4 P は、同僚警察官に A 方に急行するよう電話で指示するとともに、A 方内の捜索に着手した。すると居間の本棚に入っていた小箱の中に、B が所持していたものと同じような白色の粉末が入った小袋 20 個ほどが入っていたので、P はこの小箱を差し押えた。

【設問】

事例中の警察官 P の活動について、問題点を指摘してその適法性を検討しなさい。

〔第2問〕 次の用語について、関連条文に言及しつつ各 5 行以内で簡潔に説明しなさい。
(配点 30 点)

- ①勾留の必要性
- ②証拠開示
- ③証拠能力